



変わるシンガポールの出入国審査

北陸銀行 国際部
シンガポール駐在員事務所
所長 相川 裕亮

1. はじめに

2024年3月19日より、シンガポールとマレーシアの自動車による越境時の出入国審査に関して西部のトゥアス（図：セカンドリンク）と北部のウッドランズ（図：コースウェイ橋）においてQRコードによる新システムがシンガポール側の検問所で導入されました。この新システムの導入により、出入国審査が自動化されると共にパスポートの提示が不要となり、迅速な手続きが可能となりました。この新システムですが開始から2日間で約8万6千人が利用し、出入国者の46%相当が利用したことになります。



シンガポールとマレーシアは関わりが深く、通勤や週末の買い物など人の移動も盛んです。一方でわずか1~2km程度のこれらの橋を渡るのに1時間以上要することもあり、迅速化は課題の一つとなっていました。

本稿では変わりゆくシンガポールの出入国審査の現状を簡単に紹介したいと思います。

2. QRコード審査について

QRコードを用いた出入国審査の流れは以下の通りです。

①事前に「MyICA」アプリを用いて自動車に同乗する全員分の情報を登録し、QRコードを取得する。

②QRコードを検問所に設置されたスキャナーに提示し、審査を受ける。

QRコードの有効期限は、作成から1年間もしくはパスポート期限までとなります。利用者はパスポートを手渡しする手間や出入国審査官との接触もなくなるため、迅速な手続きが可能となります。当局によると、このシステムを利用することで4人乗りの場合約20秒、10人乗りの場合約1分の時間短縮が見込まれており、QRコードの利用が促進されると全体の待ち時間を30%以上短縮できるとしています。一方でQRコードによる出入国システムが利用できるのは現在シンガポール側のみであり、マレーシア側ではパスポートが依然として必要となっているため、今後の導入が期待されています。

3. 今後の出入国審査について

出入国者の手続き迅速化と業務効率化を狙いとして、シンガポール当局は出入国審査を全て廃止し、自動審査システムに置き換えると発表しています。

2024年後半からは国籍に関係なくすべての出入国者が空路、陸路、海路の検問所で自動化レーンをつかって審査を受けられるようになり、最終的には「自動国境管理システム(ABCS)」という新システム800基の設置が予定されています。既存の手動カウンターを自動化レーンに置き換え、出国の際にはパスポートの提示をする必要もなくなる予定です。

陸路では、第一弾として自動車の入国審査におけるQRコードスキャンが始まりましたが、2026年以降の第二弾では西部国境検問所のトゥアスにおいて非接触生体スキャナーで生体情報を読み取ることができるレーンでの身元確認の自動化、第三弾の北部ウッドランズでも同様のシステムが2028年から導入される予定です。

4. おわりに

日本では日常で国境移動を意識することは少ないかと思いますが、シンガポールとマレーシア間では特段珍しいことではありません。賃金の高いシンガポールへの通勤、物価の安いマレーシアへ週末のレジャーや買い物といったことはごく一般的なことです。

今後は2026年末に見込まれる新たな高速輸送システム(RTS)鉄道の開通やシンガポールとジョホールバルの経済特区の進展により、より人の移動が活発になることが見込まれています。



【建設中の新規高速鉄道(事務所撮影)】

シンガポールが進める出入国審査の迅速化・手続きの簡易化が進むことは現地居住者としては大歓迎なのですが、一方で相手国のシステム化が整わないことには限界があることも事実です。出国の際にはパスポートが不要となることで出国後にパスポートがないことに気付くというようなことも起こってくるのかもしれませんが。

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。

記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
(株)人材情報センター内
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp